

## Japanese Level Four Required Poem

共に明日<sup>あす</sup>を目指そうよ やまもとようこ

出会いから ここまで  
同じ季節 重ねてきた  
V<sup>ヴィ</sup>の字を 指で作って  
記念写真に 希望が見えた  
ベストフレンド ありがとう  
いつまでも 君がいる  
ボールペンで したため  
出した手紙 それが青春  
小さな旅を みんなしてきた

くるしいけれど 希望が見えた  
ベストフレンド ありがとう  
忘れない きみがいる  
心のいばら ぬいては  
心もよう 少し変えた  
数えきれない 思い出たちよ  
きみといると やさしくなれた  
ベストフレンド ありがとう  
笑<sup>え</sup>みをこぼせる 君がいる

共に明日を目指そうよ  
ともに明日を目指そうよ

## Japanese Level Four Alternate Poems

にぎりこぶし  
むらのしろう  
村野四郎

悲しい時や 苦しい時  
僕はいつも  
こぶしを 固く握りしめる

すると、 苦しみや 悲しみは  
みんな 僕から 逃げてゆく

勉強で 泣きたくなるとき  
僕はぐっと  
こぶしを 固く握りしめる

すると、 本の字が はっきり見えてくる  
また、 北風が ビュウビュウふいて  
僕をいじめる時  
ぼくは胸をはり  
ぐっと、こぶしを握りしめる

すると、 風のやつ  
急に道ばたの木へ 逃げ帰り  
枝を ガサガサ くやしそうに  
ゆすっているんだ

北の春  
まるやま かおる  
丸山 薫

どうだろう  
この沢鳴りの音は  
山々の雪をあつめて  
ごうごうと谷にあふれて流れくだる  
このすさまじい水音は

ゆる 緩みかけた雪の下から  
一つ一つ木の枝が はね起きる  
それらは 固い芽のたまをつけ  
ふてき 不敵な むちのように  
人の 額を打つ  
やがて やますその林はうっすらと  
緑いろに 色付くだろう  
その中に 早くも  
こぶしの白い花もひらくだろう

朝早く 授業の始めに  
一人の女の子が手を挙げた  
先生 つばめが きました